

次期当番校挨拶

京都女子大学図書館
館長 中山 玲子



来年度の第 86 回（2025 年度）私立大学図書館協会総会・研究大会の当番校をさせていただくことになりました京都女子大学図書館館長の中山玲子と申します。学術研究担当副学長も務めております。次期会場校として、来年度の予告とともに、一言ご挨拶申し上げます。

第 85 回（2024 年度）総会・研究大会はオンラインでの開催でございますので、本来でありますれば、私もオンラインでのご挨拶をいたすべきところ、文書にてのご挨拶となりましたこと、失礼をお詫び申し上げます。

まずは、本年度の大会開催校としてご尽力くださいました駒澤大学図書館様並びに協会会長校の明治学院大学図書館様はじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

次年度第 86 回（2025 年度）総会・研究大会の開催につきまして、日程は 2025 年 9 月 3 日（水）13 時～17 時、オンライン形式での開催を予定しております。対面形式で皆様を京都東山の京都女子大学にお迎えしたかったのですが、オンライン開催にしました理由として、はなはだお恥ずかしいことですが、本学では、現在図書館の職員数が減少しております、十分な大会を開催するための準備・対応が困難な状況でございます。また、依然として夏休み等にコロナウイルス他、各種感染症流行の懸念があることや、昨今のインバウンド需要の増加により、京都市内は宿泊施設や公共交通機関の大混雑が予想されることなども懸念材料でございます。



一方、コロナ禍後、オンラインによる会議開催が一般化し、遠方の皆様にもご参加いただけるメリットもありますことから、オンライン形式での開催とさせていただきました。

以上、諸事情をご理解いただきまして、多数の皆様のご参加をお待ちしております。



テーマにつきまして、この10年間の大会テーマを参考に検討しました結果、次年度大会テーマは「学生の主体的な学びを支えるラーニングコモンズの在り方」に致しました。

皆様ご存じのように、大学図書館の基本的機能として、大学における学生の学習支援や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割があります。

近年、大学の図書館には、ラーニングコモンズが併設されることも多く見受けられ、対話や論議を通じて学生の主体的な学習活動を促す場としての利用が期待されています。本学図書館も2017年に新築した際に、アクティブラーニングコモンズを設けましたが、2020年以降の新型コロナウイルス蔓延による行動規制等の影響もあり、人と直接対話をする事自体が敬遠される状態が長期化したため、コロナ感染症が5類に移行した現在、学生にとってラーニングコモンズの存在や活用が希薄になりつつあります。

ラーニングコモンズは、複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めて様々な情報資源から得られる情報を用いて、議論を進めて行く学習スタイルを可能にする「場」を提供するものです。その際、コンピューター設備や印刷物を提供するだけでなく、図書館の職員や大学院生等が学生の主体的な学習を支援することが望まれます。

アフターコロナという大きな変化の時にある今、本来のラーニングコモンズの在り方への回帰と今後の発展について、現状と課題、事例も交えて紹介しながら、大学図書館とラーニングコモンズの融合に新たな魅力と方向性を見出すための一助になればと考えております。

終わりにあたり、協会会長校の明治学院大学様、今年度会場校の駒澤大学様、大会の開催に尽力されたすべての関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

次年度は、オンライン開催ではありますが、皆様にご指導いただきながら、より充実した大会となりますよう、準備を進めてまいりたいと存じます。

多くの皆様にご参加いただけますことをお願い申し上げまして、次年度開催校のご挨拶とさせていただきます。